



雲 晴

新年号

「雲 晴」第三十七号

令和三年一月一日発行

貞林院瑞正寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五-四六-五
電話(03)3627-3411
FAX(03)5699-5911

謹んで

新春のお慶びを
申し上げます

昨年は新型コロナウイルス
感染症により世界中が大きな
影響を受け、新年を迎えても
まだ収束は見えない状況では
ないかと思われます。

昨年延期となつた東京オリン
ピック・パラリンピックは無
事に開催できるのでしょうか。

浄土宗が拠りどころとする經典の一つに「無量
寿經」という經典があり、その中の偈文で「祝聖
文」というものがあります。

「天下和順 日月清明 風雨以時 災厲不起
國豐民安 兵戈無用 崇德興仁 務修礼讓」

今年一年がどうか平和であることを願つて各寺

院ではお正月に行う修正会や本堂の落慶式などお
めでたい法要などでお唱えします。
「偈文」の意味は「世界が平穏で、太陽や月も清ら
かに輝き、時節良く風が吹き雨も降る、災害や疫
病も起こらず、国は豊で人々は安らかに、争いや
武器は無用で、善行と思いやりを学び、礼儀正し
く譲り合う心を持ちましよう」というものです。

このコロナ禍で約一年私たちは多くの事を学び
ました。感染の拡大当初はマスク不足で売り場に
殺到する人々、感染者や医療従事者の方々とその
家族への差別的な発言、公共交通機関内のマス
クを巡つての争いなど、思わず出てしまう人間の
本性を垣間見ることとなりました。しかしこのよ
うな浅ましい愚かな心は誰にでも奥底に存在する
ものであり、それを我慢や理性で抑えるのが智恵
なのでしょう。

お釈迦さまが説かれたこの「祝聖文」は、正に
世の中が平和で人々がお互いに安穏な日々を暮ら
せるために実践すべき教えだと思います。

新型コロナウイルスで不安な日々が続き、仕事
や家族関係など様々な要因でストレスも溜まりま
すが、このような時こそどのような心構えが大切
であるかを見つめ直すいい機会かもしません。
どうか一日も早く以前のように何処にでも自由に
出かけられ、安心して旅行や会食などができる日
が来ることを願うばかりです

著：佐山 郎 僕のねずみつて何？

唱歌のふるさと 童謡のくに⑧



童謡唱歌はひそかなブームになつてゐるようだ。

由紀さおり・安田祥子姉妹の歌声をテレビの放送などでよく

聴く。彼女たちは一種、伝道師的な役割を果たしているのだが、それとは別に、今、童謡唱歌について語ることが流行つてゐる。

祥分社刊の『案外、知らずに歌つてた童謡の謎』を書いたのは歌手の会田道人氏。もう一冊は『誰も知らない本当は怖い日本の童謡』で、これは童謡研

究会が著書。

「ずいづい」の「ずい」とは「ず

「ずいづい」のこと、つまり里芋の茎。

茶壺行列通過中は物音もたてず

にしていなければならぬから

こんなものしか食べられないが、ばかりである。

「茶壺に追われて」の「茶壺」を「お茶壺道中」あるいは「お茶壺行列」これを定説としている。

京都宇治のお茶を將軍家に献じるための行列があり、これが通る村では、粗相のないようになります。そのため「とっぴんしゃん」と戸を閉めやり過ごした、というのが原意であるという説だ。

「打ち首」もの、ああ恐ろしや。

一口法話



無量寿・無量光

インドの古いサンスクリット語の「ア」は否定形で、「ミタ」は「はかる」という意味をもつので、「アミタ」とは、はかることができないという意味で「無量」と訳します。阿弥陀様の正式なお名前は、アミタの下に「アーユス」

のち（寿）」・「アバーハイターユス」「アミターバー」といいます。阿弥陀様のお名前は、無量寿・無量光となるのです。

法然上人の御生涯⑧ 逆境と信仰

前号でご紹介したように、法然上人の教えは多くの人々の間に広まつていきました。

建久九年（一一九八）法然上人（六十六歳）は重い病気にかかりました。九条兼実は念佛の教えを後世に残すためにはまとめて欲しいと要請しました。その要請を受け、法然上人は「選択本願念佛集」（選択集と略称）を著述されました。【選択集】は浄土宗の教えを理論的体系的に説明した本で、淨土宗の根本聖典となるものです。しか

し最末尾には「一度読んだ後には、壁に埋めてしまいなさい。」と書かれていました。これは、様々な教えや修行のあります。ある仏教の中でお念佛こそを最重要視する考えは、曲解や誤解を生みやすく、ともすると他宗の僧侶には受け入れがたい側面を持つと危惧されていたのでしょうか。

そのような法然上人の懸念は、現実のものとなります。教えが世に広まるにつれ、法然上人の教えを曲解するものが現れました。例えば「阿弥陀

元久元年（一二〇四）には比叡山から、翌元久二年（一二〇五）には奈良の興福寺から、朝廷に念佛の禁止を求める要請が出されてしまいます。

建永元年（一二〇六）、一つの事件

私たちのそばにいてくださる仏さ



〔丑（牛）〕

故林 錦洞書

本年は丑年ですがこれは金文書体をモチーフにして書かれたもので、正に牛の顔です。ことわざに「牛の歩みも千里」という言葉があります。「牛の歩みも千里」とすれば失敗するものだから、とすれども、たゆまうに遅い足取りでも、たゆまず歩き続ければ、やがては千里の遠い場所まで行くことができることわざもあります。「商売をするには一時に大儲けをしよう」とすれば失敗するものだから、それにもしてもこの二つのことわざですが、いつも涎を垂らしつのんびりと動作も緩慢な牛に對して、ともするとこうゆう人間にはなってはいけないという

が起ります。後鳥羽上皇が寵愛していた女官二人が、法然上人の弟子、住蓮と安樂に感化され、上皇に無断で出家してしまったのです。この事件により念仏は禁止され、やがて法然上人は流罪となり、土佐へ（実際には、九条兼実の配慮により、九条家の領土である讃岐へ）流されてしまいました。建永二年（一二〇七）法然上人七十五歳のことでした。流罪になられる時法然上人は、九条兼実に一首のお歌を残されています。

露の身は
ここかしこにて 消えぬとも
こころはおなじ 花のうてなぞ

「露のように憐い命の私たちが、どこで亡くなつてしまつたとしても、必ずお浄土でお会いしましよう」という意味のお歌です。流罪の直後九条兼実は亡くなれ、法然上人とはこの時が今生のお別れとなりました。

法然上人は高齢での流罪にもかかわらず、「かねてより念仏の教えを都以外の人々にもすすめたいと願つていたので、この願いがかなうのでありがたいことです。たとえ死刑になつてもお念仏の教えを申さずにはいられません。」とおっしゃりました。そして流罪の最中にも多くの人にお念仏の教えを説かれました。こうして、お念仏の教えはますます広まつていったのです。

（総本山知恩院布教師会ホームページより）

「お蔭様」という言葉が沢山言え、また聞こえる生活をしたいものです。

阿弥陀如来というお名前がもうその命がなかつたら、私は今いなさいのです。まさにご先祖様のいのちのお蔭でいかされています。

また私たちは天地の恩恵つまり太陽に象徴される量り知れない光のお蔭で生かされています（無量光）。

まという意味があるのです。
私たちには量り知れないご先祖からの命の流れの中に生まれてきました（無量寿）。十代前のご先祖の数は計算すると一、〇二四人になり、もっと遡ると途方もない数になりますが、この中の一人でもになりますが、この中の一人でも

が起こります。後鳥羽上皇が寵愛していた女官二人が、法然上人の弟子、住蓮と安樂に感化され、上皇に無断で出家してしまったのです。この事件により念仏は禁止され、やがて法然上人は流罪となり、土佐へ（実際には、九条兼実の配慮により、九条家の領土である讃岐へ）流されてしまいました。建永二年（一二〇七）法然上人七十五歳のことでした。流罪になられる時法然上人は、九条兼実に一首のお歌を残されています。

露の身は
ここかしこにて 消えぬとも
こころはおなじ 花のうてなぞ



本年は丑年ですがこれは金文書体をモチーフにして書かれたもので、正に牛の顔です。ことわざに「牛の歩みも千里」という言葉があります。「牛の歩みも千里」とすれば失敗するものだから、とすれども、たゆまうに遅い足取りでも、たゆまず歩き続ければ、やがては千里の遠い場所まで行くことができることわざもあります。「商売をするには一時に大儲けをしよう」とすれば失敗するものだから、それにもしてもこの二つのことわざですが、いつも涎を垂らしつのんびりと動作も緩慢な牛に對して、ともするとこうゆう人間にはなってはいけないという

努力を続ければ、いずれ大きな成果をあげる事ができる」といふ意味で使われます。

も買い物ができる、株や投資で行ける、インターネットで何でも買えども資産が増える。このような現代社会にあらためて私惠には敬服するばかりです。

謹賀新年

寺内一同、おかげさまで元気に年を越すことができました。

今年も心を新たに精進いたしますので、檀信徒の皆様におかれましては、今後とも寺の護持興隆にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

丑年の守り本尊は、虚空藏菩薩です。無量無辺の福德と智恵を備え、人々に常にこの二つの徳を与えて諸々の願いを満たす大慈大悲の菩薩といわれています。菩薩さまのご加護により、今年一年皆さまが平安に過ごされることを心より祈念申し上げます。

令和三年辛丑 元旦

貞林院瑞正寺

住職	林清方
副住職	林良政
法類総代	林英道
同寺総代	世話人一同

令和三年 年中行事のお知らせ

本年の行事につきましては、下記のとおり予定しております。近づきましてあらためてご案内いたしますので、お説明をさせていただきます。

*春・秋彼岸会法要 三月二十日(土)
施餓鬼会法要 五月十四日(金)
七月お盆法要 七月十一日(日)
八月お盆法要 八月十三日(金)
*秋彼岸会法要 九月二十三日(木)



「遺族会世話役茂木氏とともに」

婆をご希望の方は電話・ファックス、メール等によりお申し込みください。

*春彼岸会法要 三月二十日(土)
施餓鬼会法要 五月十四日(金)

七月お盆法要 七月十一日(日)

八月お盆法要 八月十三日(金)

*秋彼岸会法要 九月二十三日(木)

本年は真言宗の開祖であります弘法大師さまが大師号下賜千百年を迎え、高野山では十月十七日より二十七日まで連日記念法会が行われ、その初日には奥の院にて大宗匠による献茶式が行われるためのご来山がありました。



「中央が千玄室大宗匠・手前前列は大圓院の現住職藤田光寛氏」

十月十七日は雨模様でしたが、奥の院での献茶式が終了後、午前九時四十五分より慰靈塔の前で厳かに献茶式が行われました。九十八歳とは思えぬ立ち振る舞いと、時間が止まつたかのように静かなお点前に参加者一同感激を覚えました。献茶後に慰靈塔の前に向かってピンと姿勢を正し、さつと右手を額に当てて数秒の間、直立不動で敬礼をしている姿が大変印象的でした。きっと亡き同期生の方々も喜んでくれたことと思います。

(貞林院瑞正寺)

高野山慰靈塔献茶式に参列

先代錦洞上人は昭和十八年の学徒出陣により海軍飛行専修予備学生第十四期生として訓練を受けていた間に終戦を迎えました。多くの同期生が学業半ば特攻などで戦死しており、その慰靈塔が高野山大圓院の墓所に「あ、同期の桜塔」としてあります。大圓院の先代故藤田光幢氏と裏千家元家元・千玄室大宗匠も同期生であり、そのような縁でこの度大宗匠の高野山ご来山に合わせて同期生のために慰靈の献茶式が行われました。

本年は真言宗の開祖であります弘法大師さまが大師号下賜千百年を迎え、高野山では十月十七日より二十七日まで連日記念法会が行われ、その初日には奥の院にて大宗匠による献茶式が行われるためのご来山がありました。

合掌